



公益社団法人 五所川原青年会議所

2014年度 理事長 平川 新介

2014年度 LOM スローガン

失敗を恐れず行動する旗手であれ!

～我々青年の行動が未来を創る

過去に感謝し、次なる50年の扉を開こう～

公益社団法人 五所川原青年会議所 2014年度 理事長所信

公益社団法人 五所川原青年会議所
理事長 平川新介

【はじめに】

1963年(昭和38年)志高き若者が相集い力を合わせ、五所川原青年会議所を設立。そして、翌年1964年(昭和39年)2月29日(社)、青森青年会議所がスポンサーとなり日本青年会議所に254番目の会員会議所として認承され正式に入会となりました。

それから半世紀に渡り奥津軽地域活動をエリアとし、様々な運動を今日まで続け「不撓不屈」の精神と「結」の精神が息づくこの地域を創造致しました。私は2002年度の入会以来、その地域を創造してきた敬愛する多くの先輩の背中を追って参りました。自分には無いスキルや行動力を見て憧れを抱き、一心不乱にJC活動に参画して参りました。2012年度、東北青年フォーラムを主管する頃になると、追い続けた先輩の姿はほとんどなく、若返っている五所川原JCメンバーに気付きました。自分がそうであったように今後は後輩に背中を見せていかなければならないと思うようになりました。

日本経済のわずかな回復の声も聞かれるようになりましたが、震災後、東北はまだ真の復興まで程遠い状況にあり、青森県やここ五所川原地域においても経済の低迷や人口減少、そして、モラルの低下など様々な問題を抱えております。

また、若者達に蔓延する利己主義的思想などから、自分の住み暮らすまちの歴史や伝統文化も知らず、まちづくりにも興味を示さなくなっているのではないのでしょうか。

このような状況ですが、50年に渡りこのまちを創造してこられた諸先輩方の歴史を振り返り、次なる50年に向け我々青年世代が旗手となり、市民と共に更なる運動を展開していかなければなりません。

【地域に根ざした公益団体へ】

我々五所川原青年会議所は2012年度に公益法人格に移行し、公益社団法人五所川原青年会議所となりました。公益法人格は一度移行すれば無期限に続くものではなく、毎年関係書類を精査し提出していかなければなりません。それゆえに単年度制の青年会議所としては不利な点も多く非常に苦勞しております。しかし、これは単に公益法人に拘る為に継続するのではなく、地域の発展の為に継続しなければならないのです。これから青年会議所という団体が発展、継続していく為には、公益的な運動を展開する表舞台の充実もさることながら、総務委員会を中心とした裏方組織を充実させることが急務だと考えます。

そのために、今年度もガバナンスの強化とコンプライアンスのチェックを重視しながら定款に則った適正な総会を行うと共に、1年間の定例会や事業が円滑に行われるように運営します。また、誰でもいつでも情報を閲覧できるよう、必要書類や活動内容を、ITを駆使し発信して参ります。そして、公益法人格維持の為に情報収集を行い、定期的に勉強会を開催すると共に、公益的視点から中間決算や本決算がスムーズに行えるように、必要書類や帳票類を日々精査しながら各委員会をサポートできるよう運営します。さらに、五所川原JCの運動がスムーズに行われるように、簡潔且つ有益な理事会を開催し、必要書類やデータをアーカイブして参ります。また、公益法人格を維持継続する為に、裏方が一致団結し情報共有をし、地域に根ざした公益団体となりうるよう運営して参ります。

【輝かしい未来を創造する為に】

青年会議所は市民意識変革団体と言われております。JCがJCメンバーの為だけに運動をしていたのでは輝かしい未来を創造することはできません。青年会議所として地域に根ざしたまちづくりをするのであれば、市民、行政、JCが三位一体となり運動を推し進めていかなければなりません。

そこで、公益事業の根幹として市民によるまちづくりを押し進める為に、2012年度より開催している五所川原市民討議会を開催致します。そして、そこから出た市民の意見を具現化する為に、同年より発動した「らぶ・ごしょがわら運動」を展開し、市民によるまちづくりを計画実行致します。また、この運動こそが市民意識変革運動と捉え、長期ビジョンを見据えた視点に立ち次代へ繋がるよう展開して参ります。

【利他の心の醸成の為に】

日本人は古来より利他の心を培ってきており、その精神は「OMO I Y A R I」の精神となり他には無い言葉として日本青年会議所が世界へ発信しております。しかし、現代では利己主義や他人への無関心が蔓延し、多くの社会問題の原因となっております。心が育つ思春期にこの精神に気づける機会を与える事が重要と考えます。

そこで、今年度も第6回を数える「じょっぱりロード～OMO I Y A R Iへの旅～」を開催いたします。小学生とボランティアが長距離を歩く中で、自分が苦しい時に他人を思いやれるように指導し「OMO I Y A R I」の精神に気づいてもらえるよう計画実行致します。

【薄れゆく伝統と文化の為に】

「天下泰平」「国家安泰」「五穀豊穰」「悪疫退散」の祈りを込め毎年開催している「奥津軽虫と火まつり」も諸先輩方のご努力と、地域に支えられ、本年度で42回目を数える伝統行事となりました。

近年では「虫おくり紙芝居」や「奥津軽虫と火まつり親善大使事業」を通して若い世代にこのまつりを伝播してきているところです。しかし、火まつりに関してはJCが主体となりその輪を広げておりますが、古くからのさなぶり行事である虫おくりを開催する人口が減り、最盛期では数十台も出陣していた虫の山車が、昨年ではわずかに二台という事になってしまいました。このままではこの伝統行事の燈火が消えてしまいます。

そこで、今年度は地域に根ざしている虫おくりの団体と共に打開策を考え、地域の幸せを願う「奥津軽虫と火まつり」が次なる半世紀に渡り繁栄し、この伝統の燈火が消えないよう運動展開して参ります。

【次なる半世紀の組織維持の為に】

青年会議所は20歳から40歳までの品格ある青年で構成された団体で、他団体では発言できないような青臭い意見を言い合い実行できる限られた存在と言えます。しかし、団塊ジュニア層の年代も過ぎ去ろうとしており、日本全体の青年会議所の会員数は減少し、本会の運営もままならない状況にあります。このような状況では日本、東北地区、青森ブロックの大会もおろか、地域に根ざした公益的な事業も継続的に展開していくことは困難となってしまいます。

そこで、次なる半世紀に向け会員拡大こそがJC運動の根幹であるということを伝えて参ります。また、各種会員拡大セミナーに参加すると共に、日本青年会議所が行っている会員拡大マニュアル取り入れながら運営して参ります。そして、入会して頂いたメンバーの方々にはJCの基礎を指導し即戦力と

なり得るよう育成して参ります。さらに、地域の旗手としてふさわしい品格あるJAYCEEであるよう、メンバー一丸となり学んで参ります。

【認承50周年を迎えて】

我が五所川原青年会議所は本年度認50周年を迎えます。戦後の衰退した地域の中でこの地の青年が立ち上がり相集い力を合わせ「明るい豊かな社会」の実現へ向け、5050年もの間運動を続けて参りました。その歴史の中では、様々な経験を積み重ね、困難を乗り越え脈々と先輩方の意思を受け継いできたのではないのでしょうか。

そこで、50周年を迎えるにあたり50年間の歴史を振り返り検証致します。また、50周年としてふさわしい記念事業を開催し、記念式典と記念誌発行を行います。そして、今まで五所川原青年会議所に携わった多くの方々と共に、認承50周年を迎えられる喜びを分かち合い、次なる50年へとバトンを繋ぎます。

【東北三つの夢実現の為に】

昨年度、日本青年会議所東北地区協議会が掲げた東北3つの夢。いわゆる、秋田ブロックより小畑会頭輩出、山形JCによるASPAC開催、そして八戸JCによる全国大会の主管であります。全国の中でも今だ「結」の精神が息づき一致団結しているこの東北JCとして、今年度開催されるASPAC山形大会と、2015年度開催の東北八戸全国大会はLOM一丸となって支援していかなければなりません。

そこで、今年度は世界に向け日本の魂を発信するASPAC山形大会に積極的に参画致します。また、2015年度初めて青森ブロック内で開催される全国大会「東北八戸全国大会」を全会員を持って支援して参ります。このことは東北青年フォーラムを主管したLOMとしては当然の責務だと考えます。

【結びに】

私の会社の社長である父は5年前に他界しました。その時青年会議所では委員長として活動しており、日々の混乱の中でJCを辞めて、商売も辞めようと思いました。しかし、その時私に勇気の言葉をくれたのもJCの先輩でした。毎日忙しくつらい中でもJC活動をしていると、多くの仲間がいて切磋琢磨しているうちに元気になる事が出来ました。このような素晴らしい団体に所属している事を誇りに思います。限りある命を一秒も無駄にはせず、今年度も諸先輩方に敬愛の念を示し、多くの仲間と共に、輝かしい未来の為に一年間邁進して参ります。

基 本 計 画

【 基 本 理 念 】

失敗を恐れず行動する
品格を持った青年による
輝かしい未来の想像

【 基 本 方 針 】

1. 正しい公益団体の維持運営と情報発信
2. 会員拡大と品格ある J A Y C E E の育成
3. 市民参加型のまちづくり運動の展開
4. 伝統を継承した奥津軽虫と火まつりの開催
5. 「OMO I Y A R I」を育む青少年育成事業の開催
6. 認承50周年記念事業と記念式典の実施
7. 「東北三つの夢」実現への支援

【 L O M スローガン 】

失敗を恐れず行動する旗手であれ!

～我々青年の行動が未来を創る

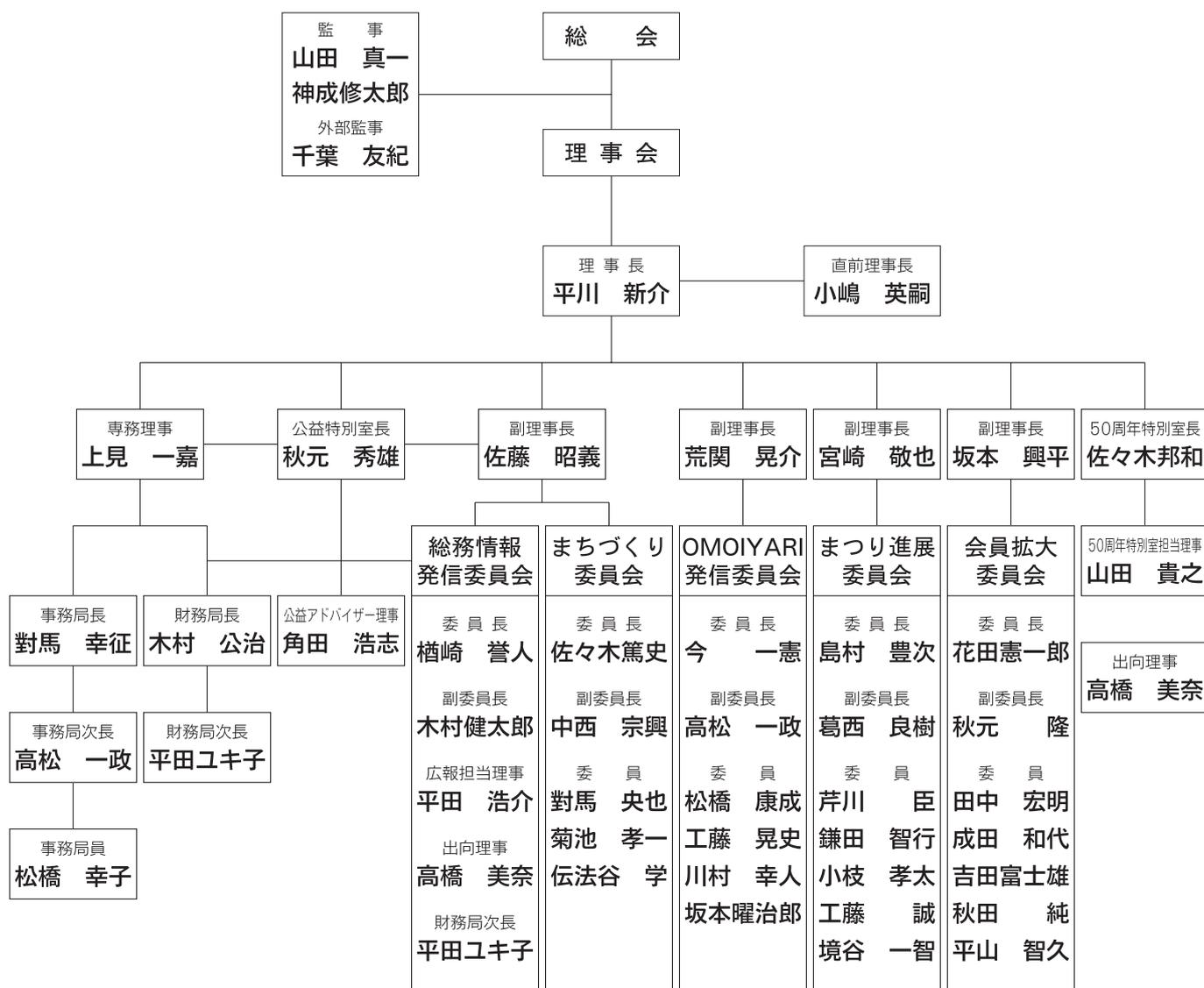
過去に感謝し、次なる50年の扉を開こう～

公益社団法人 五所川原青年会議所 2014年度 理事及び役員

理 事 長	平 川 新 介
直 前 理 事 長	小 嶋 英 嗣
専 務 理 事	上 見 一 嘉
副 理 事 長	佐 藤 昭 義
副 理 事 長	荒 関 晃 介
副 理 事 長	宮 崎 敬 也
副 理 事 長	坂 本 興 平
50周年特別室長	佐々木 邦 和
公益法人特別室長	秋 元 秀 雄
公益アドバイザー理事	角 田 浩 志
総務情報発信委員長	榎 崎 誉 人
まちづくり委員長	佐々木 篤 史
OMOIYARI 発信委員長	今 一 憲
まつり進展委員長	島 村 豊 次
会員拡大委員長	花 田 憲一郎
50周年特別室担当理事	山 田 貴 之
事務局 長 理 事	對 馬 幸 征
財務局 長 理 事	木 村 公 治
広報担当 理 事	平 田 浩 介
出 向 理 事	高 橋 美 奈
監 事	山 田 真 一
監 事	神 成 修太郎
外 部 監 事	千 葉 友 紀

公益社団法人 五所川原青年会議所 2014年度 組織図

公益社団法人 五所川原青年会議所



2014年度 出向者一覧

〈日本青年会議所〉

◆ 憲法論議推進委員会 委 員 高 橋 美 奈

〈東北地区協議会〉

◆ 復興推進委員会 委 員 中 西 宗 興

◆ 東北ゼミナール委員会 委 員 坂 本 興 平

〈青森ブロック協議会〉

◆ アカデミー大学 学 務 部 副 長 小 嶋 英 嗣
 総括幹事 鎌 田 智 行
 塾 生 平 田 ユキ子
 塾 生 吉 田 富 士 雄
 塾 生 工 藤 誠
 塾 生 工 藤 晃 史
 塾 生 對 馬 央 也
 塾 生 伝 法 谷 学

◆ 自覚ある社会創造委員会 委 員 長 高 橋 美 奈
 運 営 幹 事 對 馬 幸 征
 委 員 葛 西 良 樹

◆ 自覚ある地域創造委員会 副 委 員 長 菊 池 孝 一
 委 員 佐 々 木 邦 和

◆ 自覚あるLOM支援委員会 委 員 秋 元 隆

◆ 青森ブロック大会構築委員会 委 員 松 橋 康 成

◆ 総 務 兼 財 政 局 委 員 木 村 公 治